

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

狛犬の端坐せし宮凍て返る

池田 安起徒

山茶花の散華にくぐる鳥居かな

児玉 典子

靄かかり能舞台めく寒の宮

宮路 生大子

大陽俳句会

筆始新たに傘寿の写経かな

鍋山 美智子

松とれて車道工場にぎにぎし

岩重 みどり

校庭の紅梅囲む笑顔かな

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

納屋奥に大き甕たち引き出せば
ぼわんぼわあんと息継ぎをする

泊 康

財部短歌会

年毎に減りたる賀状数えつつ
周囲に日の丸泳がぬ元旦

永岡 冴子

冬ざれし露の臺生き継ぎて
被災地思ふ固き絆を

平田 美穂子

数ミリのパイプの中が住み処です
蓑虫くんよ寒波はどうかね

大森 巳喜生

大陽短歌会

猪も満天の星見ているか
窓より眺め夜をこもりぬ

川辺 敦子

くきやかに昇る初日に祈りたり
戦禍の空に青の戻るを

西山 美代子

冬空に天まで届けと若人ら
師の葬送に太鼓を叩く

北村 弘子

薩摩狂句 にがごい会末吉支部

うきうきとおせちを作るキッチンに
一輪差しのセンリヨウ笑まふ

脇丸 洋子

パーゲン
安売で 余計買溜めつ
驚がった

浜田 一好

かね
普段ちや来ん お年玉狙ろ
余計来つ

胡摩ヶ野 べぶまつ

ただ
無料ちゆえば 余計欲しゆなつ
又並りつ

桐野 奈世

やつ
嫉妬もせん 爺どま余計
おんじょ
老人なつ

胡摩ヶ野 べぶまつ